

8月2日 年間第18主日 マタイ14章13～21節 あなたがたが食べる物を与えなさい

先週の福音のあと、イエスが故郷のナザレで受け入れられなかったこと、そして洗礼者ヨハネの殉教の出来事が述べられています。イエスはそれを聞いて、舟で人里離れたところに退いたということは、自分や弟子の身に危険が及ぶことを心配されたのかもしれませんが。しかし、大勢の群衆が後を追ってきたので舟から上がり、病人をいやされます。

イエスは大勢の群衆を見て深く憐れまれます。これは9章の最後にも記されている表現です。そのときは「刈り入れ主を送ってくださるように祈れ」と言われましたが、ここではそれが病人のいやしにつながっています。イエスの宣教といやしの奇跡は、すべて神のみことばといやしを求めている群衆に対する憐れみからくるものだといってもいいでしょう。そしてパンを増やす奇跡もそれにつながるものだといえます。

夕暮れになったので弟子たちは群衆を解散させるようにイエスに提案します。ところがイエスは「あなたがたが食べ物を与えなさい」と言われます。そう言われても困りますね。「えっ、自腹切って買いに行かなあかんのか？」とドキドキしたかもしれません。しかし、イエスはどうかを決めておられたようです。弟子たちが言うように解散させてもよかったでしょうが、イエスは人々がみことばにも食べ物にも飢えていたことをよくご存じでした。それで群衆に対する思いからパンを増やされたのだと思います。

イエスはパンを弟子たちに配らせます。ここで疑問に感じることは、パンはいつ増えたのかということです。イエスが祈られたときか、弟子に渡したときか、弟子が配ったときなのか。この奇跡は聖体の秘跡を表わしているといわれるので、それならば最初にイエスが賛美の祈りを唱えたときなのかもしれませんが、待っている人々がいたから増えたと考えたと配ったときであるとも考えることもできます。いずれにしても手品ではないので、一連のプロセスを通して増えたということができるとでしょう。そして、弟子たちがパンを配ったことで「あなたがたが与えなさい」と言われた言葉は実現したわけです。

配り終えてみんなが満腹したあと、残ったパンのくずは十二のかごいっぱいになりました。「くず」というと小さいかけらを考えますが、「裂いたもの」という意味なので、パンの半分や三分の一くらいのもので十分食用になります。「十二」はイスラエルを表す数字です。ということは、残ったものをイスラエルの国中に持っていきなさい、ということです。具体的には家族や友だち、あるいは帰り道に出会った貧しい人に与えたことでしょう。

このパンはイエスのみことばの象徴でもあります。わたしたちがミサに集まってイエスのみことばを聞き、イエスのからだをいただくのは単に自分が恵みを受けるためだけではありません。その喜びを持って帰って周りの人と分かち合ってこそ、その意味があります。「あなたがたが食べる物を与えなさい」というイエスの言葉はそのままわたしたちにも告げられているのです。

(柳本神父)